

# スポーツ

# 川越

発行 川越市体育協会



第43回市民体育祭総合開会式

## 雑感

川越市体育協会副会長  
小山 隆

川越市民憲章の前文に「先人の輝かしい歩みにより、すばらしい歴史的遺産を持つ川越。わたしたちは、このまちに生きることに誇りをもって・・・」という名文がありますが、川越市体育協会にもこの前文が正にそのとおりあてはまるのではないかと思います。

川越市体育協会の二十五周年記念誌「体協のあゆみ」を読みますと、本体育協会の発足時の様子や埼玉国体川越会場の運営を成功に導いた苦勞等が語られております。そのふしぶしから、川越市体育協会もすばらしい先人の努力によって、その基礎が固められたことが伺えます。

また、記念誌に登場している方の中には、私が私的にもお世話になった方が多く、特に「連盟の歩み」の中の蹴球協会の記事は、私が旧制中学校時代に指導をいただいた頃のことか思い出され、たいへん懐かしく感じました。川越市体育協会は発足して四十数年になります。昭和二十三年の草創期には加盟団体が四団体(野球・卓球・軟式庭球・バレーボール)であったのが、現在では二十七団体と飛躍的な発展を遂げております。

これは、川越市民のスポーツ人口の増加と愛好スポーツの多様化に相まって連盟が組織され、それぞれの役員が自己の連盟のみならず、連合体である川越市体育協会に対しても、大いにボランティア精神を発揮して協力され、川越市民の体力の向上並びに生活の明朗化に尽力なさった賜物であると思います。

待望の川越市運動公園は、その主たる施設である陸上競技場の完成が目前に迫り、また、続いて体育館・テニスコートの設置計画も具体的な段階に入っている現在、川越市当局の川越市体育協会に期待する度合いは、ますます強まってきているものと思います。

ここに、川越市体育協会は一大転機を迎え正念場にさしかかっているといっても過言ではないと思います。終わりに、各単位団体のますますのご隆盛と皆様のご健勝をご祈念申し上げます。

# 熱いハートを燃やせ

## 講演・実技指導

三月二日川越市においてサッカー釜本邦茂氏の実技指導及び講演会「熱いハートを燃やせ」が開催された。

実技指導においては市内少年団の一九チーム約四六〇人の選手が参加し釜本氏の実技指導を受けた。釜本氏の見本(やってみせて)から始まり選手達にやらせて見せた。名選手の指導とあつて見る目、聞く耳は真剣そのものであつた。指導内容は蹴る、止める、運ぶ(パス、ドリブル)などのサッカーに必要な基本技術を丁寧に指導して頂いた。最後に元日本リーグ対決シューター釜本対ゴールキーパー鈴木道雄(元古河電工ゴールキー



パー・現川越市サッカー協会理事長)が実現し、往年の名プレーが目の前で見学でき参加者から盛大な拍手が送られた。

記念撮影では、普段なかなか整列できない選手達が一緒に写真が撮れるとあつて整列が早いように感じられた。

少ない時間ではあつたが参加した選手には楽しく又、有意義な二時間であつたと思う。

講演会にあつては演題の「熱いハートを燃やせ」のごとく釜本氏のサッカーに燃えた心が良く理解できる講演であつた。

ひとつは、全日本代表チームに入るための努力である。東京オリンピックの代表選手選考の時(当時はアマチュア規程により午前中は職務又は、勉強に専念しなければならぬことになつていた。)練習は、午後及び夜間に行われた。その中十九歳の彼は午前中がいて練習に励んだのである。感心したことは、午前中に練習したことよりも練習の内容である。その練習は人に教わるものでなく、「自分が代表選手になるのに何が必要か」を自分で考え(ゴールの隅にシュートを打てること)誰にも負けない技術を身に付けるため人生の全てを賭けたのであつた。

もうひとつは、彼の体力的な強さは持つて生まれたものとしても精神的な強さ(彼は「心」と言つた。)である。ポジションはセンターフォワードであるので一見華やかではあるが、味方からボールをもらい前を向いてゴール前の密集地域に飛び込んで行かなければ得点を取れないので相手ディフェンダーの標的にされ、時にはファールをしてでもシュートをさせまいと当つて来るからである。従つて負傷の一番多いポジションでもあり、又それが嫌でハーフやバックにさがつていく選手も多い。宮本武蔵の本を愛読し「巖流島の決戦」を思い試合に望むなど多方向から勝負に関する勉強もしたわけである。

サッカーの生涯をセンターフォワードに賭け、得点をあげること喜びを感じケガにも負けない精神力が彼を世界のストライカーに成長させたのではないだろうか。指導者の在り方が問われる現在日本のサッカーがプロリーグの発足、ワールドカップの誘致等大きく変貌しようとしている。我々指導者の役目は大切です。なぜなら釜本も又ブラジルの名選手ペレも言つている。名選手になれたのは「良い指導者に恵まれた」からだ

と。

## スポーツ教室

平成二年度スポーツ教室が、教育委員会・体育協会の主催で、一般四種目、婦人四種目、少年少女六種目計七十二名の参加により開催されました。

市民の皆様が、スポーツ参加へのきっかけ作りの場として、また健康の増進や体力の向上、そして日頃の運動不足の解消に役立てていただけるよう、レクリエーション的なものと技術的なものを併用して実施しました。

来年度の計画としましては、二ユライフスポーツとして人気の高い「ゴルフ」を、婦人対象として行なう他、「なぎなた」等新しい種目を取入れ、より多くの方が参加できるよう、計画を進めてまいります。



## 市民スキー

### 講習会

一月三十一日(木)から二月三日(日)までの四日間、教育委員会主催・スキー連盟主管で、第41回市民スキー講習会が、山形県蔵王温泉スキー場において開催されました。

三台のバスに分乗した参加者は一〇二名、蔵王の雄大なゲレンデにそれぞれのシユブールを描いていました。

また、二日には全日本基礎スキー技能検定が行なわれ、1級二名・2級三名・3級七名・4級三名・5級六名の方々がめでたく合格されました。

来シーズン42回講習会にもより多くの方々の参加を願ひ、関係者に厚く御礼申し上げます。





# Walkthon 第9回川越ウォークソン大会

十一月三日(文化の日)午前九時「パン・パン」花火が鳴り、川合喜一市長によるスタート合図で、第9回川越ウォークソン大会が、青空の下二千六百名の参加者により、盛大に開催されました。

楽しみながら長い道のりを歩く「歩け歩け運動」の要素と、速さを競う「競歩」の要素を合わせ持つ、とても手ごろな運動のウォークソン。

ただし、ブラブラ歩くのではなく、正しい姿勢で歩くことが基本です。

今大会は、市民の皆様がより幅広く参加していただけますよう、女子10kmの競技化、5km種目の年齢枠を5才上げるなどの、見直しを行ないました。

大会テーマである「正しく・美しく・速く歩こう」このテーマどおり競技された、上位入賞者とスタイル賞受賞者をご紹介します。



## 【競技】

### ◎ 競技20km男子

- 一位 白井一未 1時間45分12秒
- 二位 早見 真 1時間49分10秒
- 三位 城田泰久 1時間50分56秒
- 四位 小金山光雄 1時間58分36秒
- 五位 長谷川 渡 2時間1分34秒
- 六位 鈴木基次 2時間1分40秒
- 七位 佐々木敏雄 2時間11分2秒
- 八位 齋木六郎 2時間11分6秒
- 九位 北村富弘 2時間45分12秒
- 十位 安斉和夫 2時間49分10秒

### ◎ 競技10km女子

- 一位 須藤則子 1時間00分3秒



## 【スタイル賞】

- 二位 目黒澄江 1時間10分27秒
- 三位 山内敦子 1時間12分25秒
- 四位 石和田光子 1時間23分14秒
- 五位 松本真喜子 1時間23分26秒
- 六位 上原綾子 1時間24分10秒
- 七位 扇矢尚美 1時間27分11秒
- 八位 国府田和恵 1時間27分13秒
- 九位 柳川マサ子 1時間31分51秒
- 十位 羽賀佐知子 1時間33分23秒

### ◎ 一般10km男子

- 小川清一郎・和田 浩・浦部兼延
- 和田一彦・菅原文吉・横山源昭

### ◎ 一般10km女子

- 和田房子・鎌滝真知子・垂見さおり・水品裕子・森 公子・上野恭子

### ◎ 一般5km (40〜59歳) 男子

- 半谷 司・藤野忠男・関口敏夫・栗原 忠一・加藤良雄・柳瀬栄一
- ◎ 一般5km (40〜59歳) 女子
- 山口智寿子・沢田ちえ・山下かつ代・岡田豊子・岡田茂代・伊東栄子

### ◎ 一般5km (60歳以上) 男子

- 有光丈典・石川隆昭・山田茂雄・丸井豊一・鈴木喜三郎・沼田市造
- ◎ 一般5km (60歳以上) 女子
- 石井芳江・中嶋さん・高瀬公子・蛇沢よし・志賀シズ・守屋成子



### ◎ 小学生5km男子

- 斉藤元太・升星大樹・藤間崇弘・斉藤淳史・矢島伸一郎・小川典宏

### ◎ 小学生5km女子

- 宮崎陽子・島崎かほる・大室和代・坂城愛子・新井美奈・熊谷明子

### ◎ 中学生10km男子

- 升屋直樹・月岡 賢・松本裕司・高田智之・加藤宣和・鷺山伸人
- ◎ 中学生10km女子
- 荷田寛子・武井美紗子・細谷亜津子・井田貴美・長嶋倫子・垂見あゆみ

### ◎ 親子5km

- 荻野和久・佳子・本名信夫・照子
- 中村寿夫・仁美・松本 馨・忍
- ・浅利隆昇・隆之・三村精一・直美

## 【シルバー賞】

### ◎ 男子 (80歳以上の方)

- ・平田伊佐蔵 (87歳)
- ・窪田長治 (86歳)
- ・田代正巳 (85歳)
- ・高山里吉 (80歳)
- ◎ 女子
- ・大久保ルイ (81歳)

以上の方々、受賞おめでとうございます。

来年は、第10回の記念大会となりますので、多くの方に参加していただけますよう、関係者一同願っております。

第9回川越ウォークソン大会  
実行委員会

# 市民体育祭

## 27種目無事終了する

平成二年度の市民体育祭中央大会は、七月三十日の小学校体育連盟水泳の部を皮切りに三月三日のスケートの部をもって、体育協会加盟二十六団体・二十七種目の大会が無事終了しました。

大会開催にあたって、会場の確保や運営等で各連盟の役員さんには大変ご苦労さまでした。

大会会場は、市内・市外とそれぞれ異なりましたが、各大会において熱戦が展開されました。

屋外の競技では、雨天等天候に悩まされて実施された競技が何種目もありました。

各大会の成績については、紙面の都合により、省略させていただきます。

本年度の参加者数は下記のとおりで、合計二四九四三名の参加が得られました。参加状況を前年度と比較すると少年少女が増えている反面、婦人の参加が減りました。また過去数年間では、参加者が減少の傾向にあるのが気になります。

地区大会は、十月より十一月にかけて市内三十二会場にて開催され、一六三自治会・四三三四六名の参加が得られました。

中央大会と地区大会の参加者を合計すると六八三八九名で、市人口の約二三パーセントが市民体育祭に参加したことになります。

晴天に恵まれた十月十日(体育の日)川越市市民体育館において「第四十三回市民体育祭総合開会式並びに体育功労者及び優秀選手表彰式」が五七三名の参加を得て盛大に開催されました。

### 総合開会式

### 体育功労者・優秀選手表彰式

市長・教育長はじめ来賓多数の臨席のもと定刻に入場し、十時に開会されました。

ホスト団体(ライフル射撃協会バドミントン連盟)代表の選手宣

た。

体育功労者は、体育・スポーツの振興に著しく功績のあった方に贈られ、また優秀選手賞は小・中学生の県大会の優勝者及び関東大

学生の方を受賞されました。

は全国大会以上の大会に出場した選手に贈られます。

\* \* \*

今年度の体育功労者は次の五名

誓のあと、平成二年度体育功労者及び優秀選手表彰式が行われまし

会以上の大会に出場した選手に、そして高校・大学・一般について

川路 州隆 (五十五歳)

石井 美男 (五十歳)

スキー連盟

高山 茂 (四十五歳)

中学校体育連盟

大橋 津美子 (五十八歳)

レクリエーション協会

平成 2 年度 第43回川越市民体育祭実施報告一覧表

種 目	日 時	会 場	参 加 状 況 一 覧					合 計 数
			少年少女 小～高	青 30才未満	婦 人	社 年 30～60才	その他 60才以上	
総合開会式	10/10	市民体育館					573名	573名
野 球	9/15～10/7	初雁球場他				320名		320名
卓 球	10/21	市民体育館	W 146	53名	73名	44名	7名	323名
軟式庭球	10/2.7.28	初雁・川高コート	60名	84名	140名	10名		294名
バレーボール	9/16～11/23	市民体育館他	260名	220名	530名			1,010名
バスケットボール	10/21～11/25	川越南高校他	480名	270名	120名			870名
リッパカー	10/7～12/9	安比奈クラフト他	1,540名	380名	60名	30名		2,010名
柔 道	9/23	川越武道館	322名	97名	5名	49名		473名
剣 道	10/7	川越武道館	213名	37名	13名	5名		268名
弓 道	10/28	川越武道館	70名	25名	29名	17名	5名	146名
空 手	10/21	川越武道館	100名	100名				200名
陸 上	10/21	富士見中学校	430名		5名	7名		442名
水 泳	9/2	川越女子高校	1,340名	67名	71名	57名	1名	1,536名
ス キ ー	2/24	瀬沢パークスキー場	17名	88名	23名	59名	1名	188名
ク レ ー	10/10	群馬みずの射撃場				68名		68名
ライフル	10/14	朝霞リトル射撃場	2名	19名	3名	30名		54名
ス ケ ー ト	3/3	東武スケートセンター	33名	7名	1名	6名		47名
体 操	10/28	初雁中学校	162名					162名
小体連	水泳	川越小学校他	1,190名					1,190名
	陸上	古谷小学校他	1,320名					1,320名
中体連	10/16.17.18	野田中学校他	5,510名					5,510名
高体連	9/15～11/17	川越高校他	2,552名					2,552名
レクリエーション	10/21～11/18	市民体育館他	13名		279名	30名	5名	327名
バドミントン	11/25	市民体育館		124名	42名	58名		224名
少林拳法	11/18	市民体育館	100名	137名	16名	8名		261名
ソフトボール	9/2～11/11	人間大橋運動公園		460名	3,930名			4,390名
硬式テニス	10/6～12/2	川越水上公園他	30名	250名	220名	150名	8名	658名
ホッケー	11/11.18	川越ファミリーセンター他	8名	24名	37名	26名	5名	100名
合計数			15,888名	1,982名	2,127名	4,904名	32名	24,943名
						(総合開会式)	573名	



# 第43回

## 中央大会

渡辺 貞夫 (四十九歳)  
ボウリング連盟



市長より体育功労賞の授与

また、今年度の優秀選手賞は、二九五名で昨年度よりも八十一名多くの選手が受賞されました。種目・団体別受賞者数は次のとおりです

### 〔野球〕

・パイオニア川越工場 (20名)

・川越リトルリーグ野球協会 (21名)



### 〔卓球〕

・卓球連盟 (2名)

・星野女子高校 (3名)



### 〔軟式庭球〕

・軟式庭球連盟 (8名)

・川越東高校 (9名)



・星野女子高校 (15名)

〔バレーボール〕

・バレーボール連盟 (1名)



・川越商業高校 (14名)

〔バスケットボール〕

・大東西ミニバス教室 (16名)



・星野女子高校 (13名)

〔サッカー〕

・川越市役所 (21名)



### 〔柔道〕

・柔道連盟 (4名)



〔剣道〕

・剣道連盟 (1名)



### 〔弓道〕

・弓道連盟 (2名)



・川越農業高校 (7名)

・星野女子高校 (7名)



### 〔陸上〕

・名細中学校 (2名)



・寺尾中学校 (2名)



栄えある体育功労者・優秀選手

### 〔体操〕

・第一中学校 (2名)

・野田中学校 (8名)



・城南中学校 (2名)

・鯨井中学校 (5名)



・川越商業高校 (2名)



〔バウンドテニス〕

・バウンドテニス連盟 (1名)



### 〔少林寺拳法〕

・川越東高校 (5名)



・山村女子高校 (20名)



・城北埼玉玉高校 (9名)



### 〔相撲〕

・川越西中学校 (1名)



・川越工業高校 (7名)



なお平成元年度・二年度連続して受賞された方は六十四名でした。受賞された方々、そしてスポーツ愛好家の今後の活躍を期待します。

## 視察研修会

### 東京都夢の島総合体育館

十二月一日、二日の恒例の体育協会視察研修会が、静岡県熱海市において六十名の参加者を得て、盛大に開催されました。過去二年間の実技研修に代えて今回は施設の視察を目的として、東京都夢の島総合体育館を視察しました。この総合体育館は、廃棄物によ



夢の島総合体育館

つて埋め立て造成した十四号地の一角にあり、昭和五十一年十二月にオープンしました。鉄骨造一部鉄筋コンクリート造、地下一階、地上一階で、大中小体育室、柔道場、剣道場、相撲場、洋弓場、トレーニングルーム、ウオーキングコース、スポーツサウナ、大小研修室、健康・体力相談室、医務室、大小温水プール等を備えています。特色としては、海からの強風に対して建物の重層化を避け施設を分散配置していること、屋根がアーチ型であること、隣接する清掃工場からの余熱を利用してのこと等があげられます。朝七時に川越を出発し、午後七時三十分熱海へ到着する長旅で参加者の皆さんは少しお疲れの様子でした。ホストの卓球連盟・レクリエーション協会の協力により、無事研修会を終了しました。

### 市民ロード

#### レース

第19回市民ロードレース大会が十一月二十五日(日)川越水上公園で開催されました。当日は、小春日和の絶好のコンディションにめぐまれ、この時季にはめずらしく入間川の土手の方からの黄色い声援(タンポポの花が飛び交う中、選手はゴールまで壮絶なデットヒートを繰り広げ、ぼくが先だよ、先よ。」「ぼくの胸が早いよ。」「一秒差なの?同タイムなの?」。悲鳴と歓声がゴールライン上で飛び交う。参加選手三百七十四名が全員完走。優勝者は次のとおりです。

### 市民駅伝

#### 婦人スポーツの集い

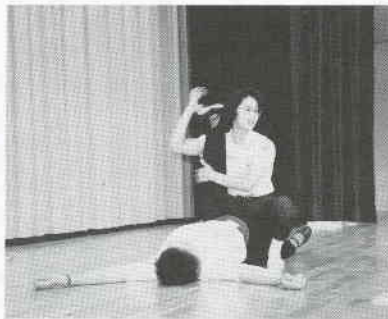
第19回市民駅伝競走大会は、十二月十六日(日)川越水上公園において、百十六チーム七百十一名が参加、熱戦が展開されました。各チームが力を合わせ、同じ目標に向って汗を流している姿は、素晴らしいものでした。優勝チームは次のように決まりました。

中学生男子は高階西中A、高校生男子は川越工業高校A、一般男子Aは大日本印刷ミクロA、一般男子Bは怪走倶楽部A、中学高校女子は星野女子高校A、一般女子は川越走友会。

なお、星野女子高校陸上部のみさんには、両大会の運営についてご協力をいただき、ありがとうございました。



七月一日、市民体育館において「第9回婦人スポーツの集い」が開催されました。当日は柔道界の女三四郎といわれた山口香さんに講師に招き、講演と軽スポーツにと快汗・楽しい一日を過ごしました。



「私と柔道」のお話では、減量に苦しまれたエピソードが印象に残っています。

軽スポーツは、「簡単にできるトレーニング」として、二人組で行う・ジャンケンをしながらか五人で行うなど、子供から大人まで楽しくできる実技指導がありました。

座右の銘「継続は力なり」のサインをいただき有意義なひとときでした。

新しいライフスタイルにおけるスポーツ(より豊かな生活のために)健康で明るく豊かな県民生活を築くため、スポーツ・レクリエーションを広く県民の間に普及し、ヘルシー埼玉21県民運動の一環として、生涯にわたる県民のスポーツ活動を一層活発化するとともに、競技力の向上・県民相互の連帯意識の高揚を図ることを目的とし、県民総合体育大会が今年で第3回を迎えました。

## 県民総合体育大会

### —コミュニティ部門—

「生涯スポーツ」ということばに求められるものは、単に、生涯にわたってスポーツに参加することでは十分な定義とはいえません。人生の長きにわたって生活の内容そのものに統合され、生活の質の充実に独自の位置を得るものとなること。さらに、スポーツが一部の

人たち、スポーツ的能力のきわだった人たちのものという枠を越えて、性、社会階層、健康者・身障者への至るまですべての人たちに開かれ享受されるものであるということでしょう。

こうした生涯スポーツ理念と方策によって、市町村・コミュニティ(地域社会)を基盤とするスポーツが徐々に発展を見せるようになりまし。

川越市においても、昭和63年度に3種目、平成元年度に7種目として2年度は、左記の9種目を実施してまいりました。

- 1、バドミントン(一般)
  - 2、軟式テニス(ママさん)
  - 3、軟式テニス(団体戦)
  - 4、卓球(女子オープン)
  - 5、卓球(一般)
  - 6、ソフトバレーボール(一般)
  - 7、バウンドテニス(一般)
  - 8、バレーボール(ママさん)
  - 9、グラウンドゴルフ(一般)
- 今後さらに進む高齢者社会においては、高齢者が自分自身のからだはそれぞれ自分で動かせるというところ、また、働き盛りの人々が自らのからだの再点検を図ることその上で、各自の適したスポーツの実践を生活の一部にしていこうことが重要なことでありましよう。



# 市民体力テスト会

## 二会場で実施される

科学技術のめざましい発展により、機械化・都市化が進行しています。また、高齢化社会の傾向が強まり、健康で明るい社会生活を営むために生涯スポーツが提唱され、健康・体力問題が社会の大きな関心を呼んでいます。

こうした背景のもと、体力テストは、日常生活の基本となる体力を確かめるものであり、その結果に基づいて自分に適した運動を規則正しく行い、体力を保持増進し、健康に自信をもって生活できるようにするために行うものです。

種目は、①反復横とび(敏捷性) ②垂直とび(瞬発力) ③握力(筋力) ④ジグザグドリブル(巧み性)



急 歩

⑤急歩(持久力)の5種目です。平成2年度は、十年十日(祝)川越市民体育館で、参加者51名、役員33名、十一月十一日(日)高階南小会場で、参加者50名、役員40名の二会場で開催されました。

それぞれの会場とも、判定結果に一喜一憂の参加者の声があがり、自己の体力に自信を持った人、減退した体力に反省する人、今後の生活のあり方を真剣に考える人等さまざまな表情が見られました。

総じて、学齢期青少年の体力低下の現状と比較すると、壮年層の体力水準の高さが一般的に指摘されていますが、川越市民の体力水準も相当の高さを保っていることがわかりました。これは、市体育協会をはじめ、スポーツ関係者の努力により、生涯スポーツが定着してきたことを意味するものであり、今後とも、その輪をより一層広めていくことが求められています。

また、今後は、体力テスト会の会場を増やし、市民が気楽に参加できるようにすること、単時間で測定できるような効率的な運営方法、測定結果の迅速な処理方法等、課題として残りました。

今後さらに、スポーツに親しみ、明るく楽しく、そして、健康で豊かな市民生活を送りたいものです。

# 賀詞交換会

一月十二日(土)、川越福祉センターにおいて、恒例の川越市体育協会主催による体育関係者賀詞交換会が盛大に開催されました。

今回は少林寺拳法協会とボウリング連盟がホスト団体となり、市長・教育長・市議会議長・スポーツ振興審議会長等来賓多数ご臨席をいただき、二十七団体の参加を得て、総勢二十七名にのぼる盛大なものとなりました。

近年生涯スポーツが叫ばれ、スポーツ人口が増えています。

体育協会の一年間の行事報告のあと、アマチュアスポーツのリーダーとして時代の要望に対応できる組織と指導者の育成をと、年頭にあたり新たな決意がなされました。



鏡 割 り 式

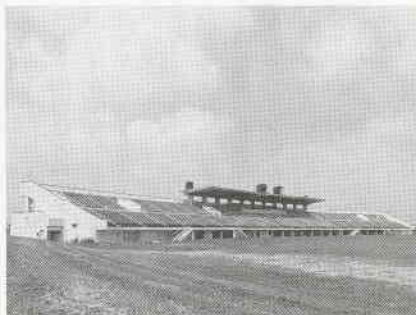
# 陸上競技場

## 平成4年度オープンめざして

体育協会の願望久しい陸上競技場は、メインスタンド(鉄筋コンクリート3階建、四千五百人収容)バックスタンド(約二千収容)が完成しました。平成3年度は、フィールド(400mトラック8コース、サッカー場芝一面)、南北芝スタンド(約二千収容)、スコアボード等の最終工事が予定されています。

完成しますと、公認陸上競技場としては、県下で4番目の施設となり、近隣市町村からも大いに注目を浴びることでしょう。

その雄姿を私たちの前に現わす日が刻々と近づいてきました。



# 「地域スポーツ振興を 図るための夜間照明 施設」の建設

急激な社会の変化や市民の人口増加等に伴い、健康な生活への意識の高まりは、幼児から高齢者に至るまで拡大し、併せて生涯スポーツ・レクリエーションとしてのスポーツ人口も増加の一途をたどっている。

こうした状況を踏まえて、市では現有体育施設の効率的な活用を図り、地域における体力づくりやスポーツ振興を積極的に推進するため、地域のバランスを考えながら学校の校庭に夜間照明施設の設置を計画的に進めております。尚平成3年3月までに設置されたの

は、小学校三校(福原小・古谷小上戸小)、中学校二校(富士見中芳野中)計五校となっています。

各設置校とも地域スポーツの振興を積極的に推進するために、開放委員会を組織し市民の健康・体力づくりのために活用しています。



福 原 小

### 婦人スポーツ団体 連絡協議会

市制六十周年の記念行事として「婦人スポーツの集い」が開催されたことがきっかけとなり、昭和六十年七月・体育協会の専門委員会として、「婦人スポーツ団体連絡協議会」が誕生しました。

卓球・軟庭・バレーボール・バスケ・テニス・剣道・弓道・水泳・レクリエーション・バドミントン・ソフトボール・硬庭・なぎなた、以上の十二団体より構成され、それぞれの連盟（協会）の中の婦人部として活動しています。協議会では、婦人スポーツの集いをメイン行事とし、各種講習会・研修会等を開催して、今日まで発展に努めてきました。



第9回婦人スポーツの集い

協議会が発足して六年目、集いは第十回を迎えようとしている今、婦人スポーツの振興を図り、健全で豊かな市民生活を目指している協議会は、これを一つの節目として、常に課題を持ち、新しい方向へと歩まなければならないと考えています。

結成されて日も浅く、やっと運営が軌道に乗ってきた未熟な協議会ですが、暖い目で見守っていただき、婦人スポーツ団体連絡協議会に対し、深いご理解とご協力をお願い申し上げます。

### 団体



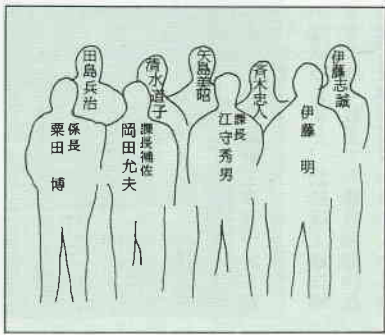
### クレール射撃協会

クレール射撃とは、ヨーロッパから伝わった競技であり、石灰とピッチで固めた直径十一センチ、高さ二・五センチのお皿をクレールと呼び、クレールを放出機にて飛ばして撃つのをクレール射撃というが、空を飛んでいるクレールに命中し、こなごなに割れた時の爽快さは格別なものがある。昭和三十年頃か



らは落合橋近辺で、皆で草かりをしてから初めた射撃でした。その後所沢射撃場が出来るまでの間で、東京オリンピックの強化練習として使われ、楽しく、のどかな時代でした。現在は吉見町に百穴射撃場がありますが、各猟友会、各射撃クラブが使用申込みをするため三月〜十月までの日・祭日とも一般では射撃が出来ない程の状態です。そのため川越市クレール射撃協会では、群馬県富岡市の群馬ジャイアント射撃場まで遠征する事もたびたびである。短時間で、個人的にもプレーが出来るといふ事で若い人から熟年層まで幅広い年代で楽しめる競技である。まだ二年先であるが、長瀬町にライフル射撃とクレール射撃の国際試合が出来ると立派な県営射撃場が、今着々と工事を進めている。射撃マンにとって、心待たれる平成五年春である。

### 事務局紹介



「社会の貴重な財産」であるスポーツというものを広く普及、発展させていくためには、それぞれの立場で、みんなが前向きに、具体

### 編集後記

今までと紙面が変わったのにお気付きですか。そうです。発行以来初めて二色刷りになりました。そしてページ数も増えて八ページとなりました。さて内容はというと、「川越市における体育」という感があります。

記録的な「スポーツ川越」から情報をタイムリーに伝える「スポーツ川越」に飛躍するよう、課題をかかえながらも、たくさんの人達に読んでもらえればと願いながら、編集に励んでいる広報委員会です。

おわりに、忙しい中にもかかわらず心よくご寄稿いただいた各位にお礼を申し上げます。  
(広報委員会)